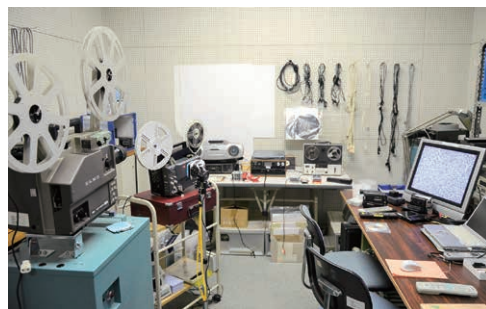


時を遡る、 地下のビデオ編集室



市立博物館には、昔の四日市を記録した映像や展示・講演会などを録画したVHS、8mmビデオなどのビデオテープ、さらに古くなると8mmフィルムや16mmフィルムなどの映画フィルム、音声を記録したオープンリールテープなど、実に種々雑多な古い記録媒体が残されています。めったに使うものではありませんが、毎年開催している展覧会「昭和のくらし」や「四日市空襲」などで必要な場合もあります。そこで、いざという時すぐ使えるように、また後世になってもその記録を見られるように、すべてデータ化してDVDに残すことになりました。

しかし、困ったのがそれらの媒体を再生する機器が少なくなっていることです。当館で所有している機器は年代物のため、現在は職員自ら分解・整備して使用しています。再生機器はデータ化の作業が終了したらお役ご免となりますが、今度は収蔵品として皆さんの前に現れる日が来るかもしれません。



ビデオ編集室

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

江戸時代の食卓 多彩な陶磁器

今月から、あまり知られていないさまざまな市内のお宝（文化財）を紹介していきます。今回のテーマは、江戸時代の食卓を彩った陶磁器です。

江戸時代の四日市は、東海道五十三次の43番目の宿場町で、代官の住居・役所である陣屋が置かれていました。四日市陣屋は、現在の中部西小学校（北町）辺りにあり、江戸時代の絵図によると、広い堀に囲まれていました。

同校の校舎建て替えに伴い、平成11年にこの堀の一部の発掘調査を実施。堀は木の板で土留めがされており、中からは陶磁器を中心にいろいろな生活用品が出土しました。陶磁器の産地は、

愛知県・岐阜県を中心に、滋賀県や佐賀県が多数を占め、岡山県のものもありました。また、萬古焼や、市内桜町で一時期焼かれていた桜焼なども出土しています。

これらの出土品から、江戸時代の四日市の人々が、多彩な陶磁器で食事を楽しんでいた様子が思い浮かびます。



佐賀県産の碗

☎ 文化課 (TEL) 354-8239 (FAX) 354-8338